

# 人権だより

令和6年度 3学期号

令和7年3月19日発行

## 【 砥部分校 人権だよりについて 】

令和6年度、3学期の人権だよりを発行します。

これは、砥部分校、人権委員会による活動です。

今学期は1年生人権委員が担当です。今回のトピックは以下の通りです。

- 『 砥部町人権ポスター 』『 砥部町人権標語 』紹介 【 1年生 】
- 人権・同和教育ホームルーム活動報告 【 1・2年生 人権・同和教育ホームルーム活動 】

## 【 砥部町人権ポスター 】

金賞 西原万智



銀賞 武智衣代



銅賞 村上さくら



## 【 砥部分校 人権ポスターへの取組 】

砥部分校では、毎年1年生が夏休みを利用して『人権ポスター』を描きます。昨年までは、それらの作品の中から、県の『人権尊重の意識を高めるためのポスター』と砥部町『人権ポスター』へと秀作を選出し、多くの先輩方が入選を果たしてきました。今年度からは、砥部町の『人権ポスター』だけになりましたが、11Rみんなが、1学期の人権・同和教育ホームルーム活動などで考えたことをテーマに一生懸命ポスターを描いてくれました。自分たちの得意を生かして、人権について広報すること。それが私たちにできる人権尊重の意識を高める行動の一つだと思っています。

## 【 砥部町人権標語出品作品 】

ねえ聞いて あの子の心の 傷の音

1年 岡本 菜月

知ってるよ あなたの強さ 弱さもね

1年 黒川 藍子

虹色な 言葉の魔法 煌めかせ

1年 西田 愛菜

## 【 1・2年生 人権・同和教育ホームルーム活動 】

### 1年生【身近な人権問題について考えよう】

1年生は「身近な人権問題について考えよう」というテーマのもと、アンコンシャスバイアスについて理解を深めました。授業の最初にクイズがありました。料理の写が表示され、その料理はどんな人が作ったのか考えました。次にアンコンシャスバイアスについて詳しく学びました。アンコンシャスバイアスとは『無意識の思いこみ』という意味があります。ジェンダーバイアスや同調バイアスなど様々な種類があります。班に分かれてアンコンシャスバイアスによってどんな問題が発生するかグループで意見をまとめました。無意識の思いこみにより偏見や差別が生まれたり、自己肯定感が低くなったり、トラブルの元となったり、今話題となっているジェンダーストレスなどが生まれたりなど、身近な問題のトラブルについての意見が多くありました。みんな真剣に話し合い、意見を出し合って発表しました。授業を通して、主体的な態度はもちろんのこと、発表の時は相手の意見、自分の意見どちらも尊重し、考えることができました。よい活動が出来たと思います。

### 1年生【人権委員さん感想】

私はこの授業を受けてアンコンシャスバイアスについて驚いたことがあります。それは種類の多さです、授業で学んだだけでも6種類はありました。私たちの生活の中に、こんなにも思いこみや先入観があることを知ることが出来てよかったです。

誰にも先入観や思いこみがあると思います。アンコンシャスバイアスの影響と解決を自分なりに考えてみました。多数意見に合わせてしまう同調バイアスでは、自分らしさが失われてしまうと思います。人と違うことを恐れる人の心理からきているからです。解決策は周囲に流されすぎず、自分の考えを大切にすることだと思います。またアンコンシャスバイアスには良い面もあるのでこのようなアンコンシャスバイアスとの付き合い方も大切だと思います。



### 2年生【 平等な社会を目指して 】

私たちは「平等な社会を目指して」というテーマで人権・同和教育について学びました。

同和对策事業における戦後の歩みを学ぶ中で、識字学級について知りました。私たちが当たり前に行っている読み書きですが、学ぶ機会を奪われ、字の読み書きが特別なものになっている方々がいたことを知りました。

差別や貧困で学校に通えず、文字を学ぶ機会を奪われた高知県の北代色さんが、初めて覚えた文字で、文字を教えてくれた先生に宛てた手紙「タやけがうつくしい」を読みました。その手紙を班で話し合いながら読み解きました。“文字を覚えることで北代さんが奪い返したものは何か”という問いに対し、「感受性、自信、広い視野、自分で選択する自由、誇り」などという意見が出ました。また、“学ぶことの意味”について改めて考えました。「人生を豊かにする」「選択肢を増やす」「未来の自分を支える」「自分が自分であるため」などの意見がありました。

今、当たり前に行っていることが当たり前ではないことに気がつきました。私たちが日々学べていることに感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。この1年間、差別の歴史について学び、苦しい環境の中でも諦めずに生き抜いて、未来のために行動してくれた人たちがいるから今があると思いました。